



## 注意事項

### 【試合】

#### ● 試合前に関すること

1. 練習に関しては、江戸川球場に於いては練習場は無し。  
アップ等は球場周辺で済ませること。  
第二臨海球技場に於いては外野ネットの外での練習を許可するが、  
試合中の打者から見て投手の腕の中に入らないよう注意する。  
その他の球場に関しては、その球場担当役員に確認すること。
2. 各球場周辺(道路・歩道・公園を含む)でのキャッチボールやバットの素振りを禁止する。
3. 試合前、待機時間にベンチ前でのノック及びロングティー等は禁止する。(第一試合も含む)

#### ● 試合中に関すること

1. 投球練習は初回は6球、2回以降は4球、共に1分以内を原則とする。  
(この際、次打者は打席付近に近づいて投球を観察してはいけない)  
投手交代時の投手の投球練習は原則6球とする。
2. 攻守の交代は、全力疾走で行うこと。
3. バッテリーの動きをスピーディーのするように常に注意すること。  
(ボールの返球、サインの確認、インターバル、不必要な牽制、等)
4. 打者は速やかに打席に入ること。なお、ダッグアウトのサインを見たり、打者がランナーと合わせて手を挙げてサインを見るのは時間延長につながるので、しないこと。  
また、手のすべり止めをするために、いちいちバッターボックスをはずさないこと。
5. 時間のかかる複雑なサインは、監督・捕手・内野手ともに極力避けること。  
(スピーディーにタイミングよく出すこと)
6. 走者のヘルメットが脱げた場合は、タイムをかけないこと。(審判員が走者に届ける)  
2塁ベース到達時のエルボーガード等の着脱のためのタイムは認める。
7. 各回の第一打者と次打者およびベースコーチはミーティングに参加せず  
直ちに配置につくこと。
8. タイム時に内野でハドルを組む場合は、監督・コーチ(伝令も含む)の他6人以内とする。
9. ダッグアウト前やダッグアウトの上に用具等を置かないこと。
10. 走者、次打者、ベースコーチやダッグアウトなどから、次打者への球種やコースなどの  
アドバイス(サインを含む)をしないこと。
11. 相手チームを中傷するような野次を発したり、威嚇するような行為をしてはいけない。

## 12. ペナルティ

- ① 打者または走者が、試合中に審判員の判定に対して故意にヘルメットやバットをたたきつけた場合は、そのプレイが終わり次第試合から外される。
  - ・ 死球を受けた打者が投手に向かって行き、暴行行為があった場合は、その後の大会参加を認めない。その場合、交代選手の登録も許可しない。
  - ・ 監督・成人コーチがフィールド内外を問わず、飲酒、喧嘩で、公の場に相応しくない言動で他に著しい不快を与えた場合は、その後の大会参加を認めない。
- ② 選手を球場から引き上げさせた監督は、退場処分とし抗議権を失う。

### ● 試合後に関すること

1. 試合終了後は、速やかに次のチームにダッグアウトをあげ渡すこと。
2. 試合を終了したチームは、次試合のシートノック終了後、必ず球場整備を行うこと。これは、関東連盟のみならず、北海道、沖縄、九州連盟所属のチームも必ず行うこと。
3. 最終試合チームは、ダッグアウト、通路等の清掃を行うこと。

### 【 審判員 】

1. トーナメント大会では、監督・コーチは審判員となることを認めない。  
但し、会長杯に限りチーム審判員として成人コーチが審判員を務めることを認める。  
この場合、事前に大会本部へ届け出ること。
2. 試合開始前に次のことを確認しなければならない。
  - ① 登録選手の確認。
  - ② ダッグアウト内の制限人数の確認。  
(出場可能選手18名、監督・コーチ3名、スコアラー1名)
  - ③ ユニホーム及び用具の確認。
  - ④ 登板投手記録票の確認。
3. 球場内外を問わず、好ましくない行為、ヤジ等には必ず注意を与えること。
4. 打撃順表の交換が行われる時刻に、審判室に到着せず、試合前のミーティングに参加できない場合は、審判をお断りする場合がある。
5. 試合を主宰するにあたり、私情を交える事なく規則を厳格に守らせる責任がある。
6. 必要に応じ、審判員のサングラス使用を認める。(ミラーレンズのサングラスは不可)

### 【 その他 】

1. 参加者の健康管理には、各チームで十分注意を払うこと。
2. 茶・金・黄色など異質な染髪をしている指導者および選手の大会への参加は認めない。  
これは、染髪を対象にしているのであって、染髪以外の理由の場合は参加を認める。
3. ゴミは球場施設内に捨てずに、必ず宿舎に持ち帰ること。  
スタンドで応援する選手、家族にも徹底すること。